



2024年 7月29日
第14号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



施策提案 **グループ会社と一体となった業務執行体制の深度化 本部が提案を受ける**

JR東労組本部は、7月29日、本社より表題の提案を受けました。

「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」から現在に至るまで、エルダー社員の技術力・ノウハウを活かせる仕事の場の拡大およびグループ会社のプロパー社員も含めた業務執行体制の構築により、技術力の向上を実現している。

今後、さらに新系列車両への置換えが進むことから、環境の変化に柔軟に対応し、「変革2027」の実現に向けた取組みをさらに加速させるために、グループ会社と一体となって、より効率的な業務執行体制の構築を目指していく。

1. 実施内容 **新系列車両の機能保全の委託を可能とする。**
2. 実施期日 **令和7年4月1日**

※提案時議論は、本部業務部速報 No.2 を参照

検修職場（車両センター）は、新型車両の投入などによる業務の質的变化と、国鉄採用者の退職・エルダー雇用の場の確保という環境面的な変化に対応するため、施策を通じて職場が変化させられてきました。

特に業務委託の拡大による変化として、平成13年からは「**グループ会社と一体となった業務体制の構築**」、平成24年からは「**グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進**」と、段階を経てグループ会社の業務領域が拡大されてきました。

JR東労組は「さらなる推進」施策において、東日本大震災を挟み約2年半の団体交渉を積み上げました。

『技術レベルを維持するための一定のフィールド』として会社自らが示した「**新系列車両の機能保全**」に加え、「**機動班業務（臨時修繕）**」を直営で維持していくことを確認し妥結しています。

今回 JR 東日本会社は、「**機能保全**」を委託可能業務として仕切り、地方提案によっては来春以降で、職場の状況に応じて外注化される可能性が出てきました。会社自ら「一定のフィールドが必要」として残してきた業務を委託することに矛盾はないでしょうか？

車両の上位検査がタイムベースからキロベース、CBM化するなかでも、一定のタイムベースで行う機能保全で、五感を研ぎ澄ましながら検査・修繕し、車両の安全と品質を守り、技術と経験を蓄積してきました。施策により安全や技術レベルが低下してはなりません。何より担う検修社員のモチベーションが向上し、将来にわたり技術継承できるフィールドを確保すべきです。

これまでの施策による職場体制イメージ

平成13年～平成24年「業務体制の構築」												
JR東日本（本体）						グループ会社						
検修助役			企画助役			構内助役			作業責任者			
技術管理室	交番検査班	機動班	事務	用品・資材		仕業検査	派出	信号	構内運転士	構内運転士	上廻り検修・転削	庁舎・車両清掃
平成24年～令和7年「さらなる推進」												
JR東日本（本体）						グループ会社						
検修副長			企画副長			構内副長			作業責任者			
技術管理	保全G （臨時修繕）		事務	用品・資材		仕業検査	派出（運転）	信号	構内運転士	上廻り検修・転削	庁舎・車両清掃	
令和7年～「深度化」												
JR東日本（本体）						グループ会社						
検修副長			企画副長			構内副長			作業責任者			
技術管理	保全G（臨時修繕）		事務	用品・資材		機能保全	仕業検査	派出（運転）	信号	構内運転士	上廻り検修・転削	庁舎・車両清掃

検修職場の将来を見据えた議論をみんなでつくりだそう！